



社会福祉法人 京都障害者福祉センター

4月から京都市うずまさ学園及び京都市太秦障害者 デイサービスセンターの指定管理がスタートしました。

4月から京都市うずまさ学園及び京都市太秦障害者デイサービスセンターの指定管理がスタートしました。

当法人では、これまで南区、伏見区、山科区において、21の施設を運営してまいりましたが、今回の2施設を加え、23の施設を運営することになります。

こうした形で施設の運営を引き継ぐのは、初めての経験になりますが、この間前指定管理者である右京区社会福祉協議会様と緊密に連携を図りながら、円滑な移行に向けて準備を進めてまいりました。

職員体制については、うずまさ学園、太秦障害者デイサービスセンターの職員24名の方に引き続き勤務いただくとともに、竹内竜也施設長を先頭に6名の職員を人事異動で配置、新たに3名の職員を採用するなどによりその整備を図りました。

うずまさ学園、太秦障害者デイサービスセンターは、「右京区太秦の地に障害者施設を」との当時の関係者の皆様、地域の皆様の熱意で開設されました。

こうした伝統や思いをしっかりと引継ぎ、利用者さん、ご家族の皆様はもとより、職員の皆さんにも、当法人に運営が変わって良かったと実感いただける施設運営に全力で取り組んでまいります。

※施設の概要

- (1) 名称 京都市うずまさ学園, 京都市太秦障害者デイサービスセンター
- (2) 所在地 京都市右京区太秦森ヶ前町21-10 地下鉄太秦天神川駅徒歩5分
施設面積 1,684㎡ (鉄筋コンクリート造3階建て)
- (3) 開所年月日 平成14年4月 (設置主体 京都市)
- (4) 定員 うずまさ学園 (多機能型) 生活介護30名、就労支援B型30名
太秦障害者デイサービスセンター 20名



令和4年度第5回理事会が開催されました。

令和4年度第5回理事会が、理事、監事出席の下、3月16日（木）午後2時から、洛南身体障害者福祉会館において開催されました。

理事会では、令和4年度第2次補正予算案、令和5年度予算案について、令和5年度事業計画案について、規則等の一部改正について、施設長等の人事発令について、役員等賠償責任保険の契約について審議され、活発な質疑の後、原案どおり承認されました。

また、理事長・常務理事の職務執行状況報告について、資金運用計画及び実施状況について、事務局から報告がなされました。

1 決議事項

第1号議案 令和4年度第2次補正予算案について

第2号議案 令和5年度予算案について

第3号議案 令和5年度事業計画案について

第4号議案 規則等の一部改正について

4 - 1 うずまさ学園及び太秦障害者デイサービスセンターの指定管理に伴う改正

4 - 2 旅費支給規程の一部改正

第5号議案 施設長等の人事発令について

第6号議案 役員等賠償責任保険の契約について

2 報告事項

(1) 理事長・常務理事の職務執行状況報告について

3 その他報告事項

(1) 資金運用計画及び実施状況について



令和4年度第4回評議員事業報告会が開催されました。

令和4年度第5回理事会が、評議員、理事、監事出席の下、3月23日（木）午後2時から、京都テルサにおいて開催されました。

評議員事業報告会では、京都いたはし学園移転先用地の購入について、令和4年度下期の業務執行状況について、令和4年度第2次補正予算について、令和5年度予算について、令和5年度事業計画について、事務局から報告がなされました。

その中でも、かねてから法人の懸案であった京都いたはし学園移転先用地の購入についてのほか、法人での働き方改革の取組、法人の給与水準や人材確保の取組など法人運営全般について、活発な質疑が行われました。

報告事項

- 1 京都いたはし学園移転先用地の購入について
- 2 令和4年度下期の業務執行状況について
- 3 令和4年度第2次補正予算について
- 4 令和5年度予算について
- 5 令和5年度事業計画について
- 6 その他



令和5年3月31日付退職、 令和5年4月1日付人事異動・採用発令式が挙行されました。

令和5年3月31日付退職、令和5年4月1日付人事異動・採用発令式が、理事、対象者出席の下、3月31日（金）午前9時30分から、洛南身体障害者福祉会館において挙行されました。（うずまさ学園、太秦デイサービスセンターからの採用者は、別途4月3日（月）午後5時から採用発令式を挙行）

前田理事長から一人ひとりに辞令が交付され、労いや激励の挨拶がありました。
松原直之様、43年間の永きにわたり大変お疲れ様でした。
また昇任、採用された皆さん、誠におめでとうございます。
皆さんの益々のご活躍をお祈り申し上げます。

（1）定年退職

山科エリア

センター長 松原直之

（2）採用

ふしみ学園

支援員 山部詩奈（嘱託より）

いたはし学園

支援員 池田永莉奈（嘱託より）

だいが学園

支援員 中野清楓（新卒）

放課後すてーじ

支援員 小林照美（嘱託より）

うずまさ学園

支援員 森田由紀（嘱託より）

うずまさ学園

主 任 佐波達也（外部より）

うずまさ学園

支援員 福間 撰（外部より）

うずまさ学園

支援員 秋山凧砂（外部より）

うずまさ学園

支援員 小林友鶴（外部より）

太秦デイ

副主任 内山智美（外部より）

太秦デイ

支援員 池田 剛（外部より）

太秦デイ

支援員 石井田史英（外部より）

太秦デイ

支援員 牧野理子（外部より）

太秦デイ

支援員 竹井博行（外部より）

（3）昇任

支援センターらくとう

副主任 水上雅雄（相談員より）

洛南会館

副館長 安江朋香（主任より）

洛南授産所

主 任 福島正人（副主任より）

伏見エリア

センター長 時任百子（所長より）

伏見デイ

主 任 山下玄一郎（副主任より）

伏見授産所

副主任 岩崎維子（支援員より）

山科エリア

センター長 高橋憲二（所長より）

山科会館

副館長 南出 陽（主任より）

山科授産所

主 任 矢野響子（副主任より）

デイスポット楽

副所長 國領英世（主任より）

(4) 異動

右京エリア	センター長	竹内竜也 (伏見エリアより)
洛南会館	副主任	塚本太一郎 (デイスポット楽より)
あすなろ	支援員	北川 舞 (山科会館より)
伏見デイ	支援員	原田友和 (山科デイより)
ふしみ学園	園長	河村剛士 (いたはし学園園長より)
ふしみ学園	主任	奥村栄浩 (本部より)
放課後らいと	副主任	小出将也 (洛南会館より)
山科会館	館長	渡邊昭子 (山科授産所所長より)
山科授産所	主任	矢野響子 (あすなろより)
だいが学園	支援員	芝田 圭 (ふしみ学園より)
デイスポット楽	支援員	山岡 希 (だいが学園より)
うずまさ学園	副主任	竹口純子 (ふしみ学園より)
うずまさ学園	支援員	平嶋麻由 (ふしみ学園より)
太秦デイ	主任	茗荷 真 (放課後らいとより)

(5) 兼職命免

時任百子	伏見デイ所長、伏見授産所所長、ふしみ寮所長、伏見社会福祉総合センター管理者
河村剛士	いたはし学園園長
政田美由紀	山科合同福祉センター管理者
渡邊昭子	山科授産所所長
高橋憲二	デイスポット楽所長、ほっと所長、すてーじ所長、あんど所長
竹内竜也	うずまさ学園園長、太秦デイ所長、 (兼職免) ふしみ学園園長



令和4年度奨明賞を デイスポット「楽」今井涼香支援員が受賞しました。

奨明賞は、桂の泉学園を創業された北川明様が「障害者福祉」の分野で活躍中の次代を担う若い世代の職員（勤続3年以上10年未満）が、仕事にやりがいを感じ、より一層仕事に励み、職場に定着することを目的に創設された制度です。

デイスポット「楽」今井涼香支援員が、利用者やその家族に対する対応に優れ、障害者福祉の仕事に誇りを持ち、他の職員の模範となっているとして、令和4年度奨明賞を受賞（全市で5名）されました。

3月24日（木）午後2時から、桂の泉学園（西京区）で表彰式が挙行政され、盾及び賞金が贈呈されました。

御受賞誠におめでとうございます。

今後益々の活躍を祈念いたします。



令和6年4月1日付正規職員採用試験の実施について

2024年3月31日卒業予定の方、第2新卒者（卒業後3年以内の方）を対象に職員採用試験を実施します。

職員の皆さんにおかれては、多くの方に受検いただけるよう、お知り合いの方への声掛けをお願いします。

- 1 職 種 支援員
- 2 採用予定人員 5名程度
- 3 職務内容 身体障がい者及び知的障がい者の方々に対する生活支援
- 4 勤務場所 法人内23施設
- 5 受験資格
 - (1) 2024年3月31日、4年制大学・短大・専門学校卒業予定の方及び第2新卒者（卒業後3年以内の方）
 - (2) 普通自動車運転免許所有者（2024年3月31日までに取得見込可）
- 6 試験日 令和5年4月18日（火）午前9時30分～
- 7 問合せ先
社会福祉法人 京都障害者福祉センター 本部事務局 TEL 075-691-4101
ホームページ <http://www.kyofc.or.jp/>

（本部事務局）

今年も洛南会館の桜が満開になりました！

洛南会館の北側敷地に桜の木が三本あることをご存知でしょうか？

推定樹齢は50年以上の桜の木ですが、今年も無事に花を咲かせてくれました。

そして2階の訓練室からは、桜の枝と同じ目線で鑑賞できます。



3月下旬に生活介護のメンバーさんでお花見をしました。美味しいお菓子とお茶、散り始めの桜吹雪の中、久しぶりに穏やかに楽しい時間になりました。



3月中旬には保育士を目指す学生さんが実習にいられていました。最終日、実習生さん作の桜の木に、みんなで花を咲かせました。作品は館内1階の廊下に展示中です。ぜひご覧ください！



(京都市洛南身障害者福祉会館 多機能型事業：安江 朋香)

伏見エリアTOPICS 【グループホームふしみ寮】

軽自動車（エブリィ）を購入しました

季節は少しずつ暖かくなりつつある今日この頃、以前からふしみ寮でも自動車の購入を考えていました。ご家族さんからの寄付を自動車購入の一部に充て、3月7日に納車してもらいました。



車椅子の利用者さんが乗車することが可能な福祉車両で、ふしみ寮の利用者さんの外出・余暇活動・病院受診・自宅送迎・家庭訪問等に使う予定です。また、ふしみ寮の利用者さんの支援以外に、福祉有償車両の登録をしました。

現在、生活サポートセンター『とらい』で使用しているハイゼットの補助いすと比べて、背もたれの部分が長く弾力性があり、座面は厚さがありふかふかで座り心地が良いです。



ハイゼット



エブリィ



今まではコロナ禍での寮内（屋内）で行っていた季節の行事がほとんどでしたが、車を使って外出をすることで季節の移ろいや街の賑いなどを感じて頂ければと思っています。

自動車を購入したことで、できなかった支援ができる支援につながり、生活の楽しみが広がっていくことを期待しています。

（グループホームふしみ寮：西村 拓史）

壁面創作活動

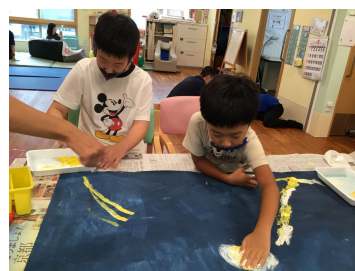
すてーじでは今年度壁面に飾る創作活動に力を入れています。スタッフ一同でいろんなアイデアを出し合い、その季節にあったものを作っています。

背景の色塗りから飾り付けまで、利用者さんとスタッフみんなで取り組んでいます。

貼る、切る、塗る等の作業をできる方で役割分担をしています。手で直接色を塗る方、筆やスタンプ等を使う方、様々な方法を使用し、個性のある作品に仕上がっています。

実際に出来上がったものは2階に上がったところに展示しています。2階に来られる見学の方や保護者の方にも「すごい」、「綺麗」とお褒めの言葉をいただいています。

4月からも継続して取り組んでいきたいと思っています。



5月 こいのぼり

6月 梅雨

7月 七夕



8月 花火

10月 ハロウィン

11月 十五夜



東野センターに来所された際はぜひご覧ください。

(放課後等デイサービス すてーじ：溝内 脩平)

支援センターに求められること

年3回、京都市障害保健福祉推進室と市内15ヶ所の支援センターが集まる会議があります。正式名称は「障害者地域生活支援センター連絡会議」と言い、その会議では現状での確認すべき事項や課題等の共有・協議する場となっています。その会議が先月3/10（金）に行われたのですが、「今後の支援センターを考える取り組み検討」という議題の中で、某センターのセンター長が次のような事を発言されていました。

「支援センターに求められる事は、その時代で変わってくるものだと感じている。」

「支援センターが始まった時にはサービスや資源はほとんどなかった。現在の調整業務というものはほとんどなかった。」

私が支援センター「らくとう」に入職したのが2004年（平成16年）。支援費制度が始まった翌年になり、そこから大きく制度の変革が行われてきました。

今でこそサービスの種類や事業所数はとても多く、充実してきていますが、その当時は届けられるサービスは限定的で、選択できる事業所はほぼない、また支援費制度では精神障害者は対象外であった、という時代でした。そのような時代であったため、現在における「計画相談」のような「調整業務」、つまり様々なサービス形態の様々な事業所との支援における細かな連絡調整は、ほとんどありませんでした。

そのため今ある資源をどのように活用できるのか、他に使える地域資源はないのか、どのように資源を増やしていけるのか、そのためにどのように関係作りやネットワーク作りを行ったらよいのか等、当時の支援センターにはそのような事が求められていたように振り返っています。

現在でも不足するサービスや制度の狭間の問題は多数あり、「地域課題」として地域協議会を運営していく中で解決に向けた取り組みを、変わらず支援センターの役割として求められており、地域の様々な関係機関と連携を図るネットワーク作りに奔走しています。

また、日々の生活における当事者からの生活相談についても、支援センターの中心的な業務であるのですが、他方、生活相談を担う計画相談事業所が市内に沢山出てきている現状に対し、支援センターが担うべき役割とは他にどのような事なのだろうか…と考えるわけです。

そのように考えていく中で、「支援センターとして担うべき事」は自身の中では色々と思いつかぶのですが、「支援センターとして担うべき事」のため、まずは15ヶ所の支援センターにおいて、更なるレベルアップが必要なのではないのか？というのが議題の主旨でした。

支援センターとして成すべき事や求められる事は時代と共に変化する、その変化に対応していくために先駆者達の積み上げてきた思い・考えを受け継ぎながら、時代に即したものを再考し実践に移していく。そのような事を会議の中で考えていました。

支援センター「らくなん」は2001年1月に、支援センター「らくとう」は2002年10月に開設されました。20年以上が経過した事になります。この20年ほどの間に職員も入れ替わりましたが、「地域での暮らし・地域での生活を実現する」を志向し、その思いは引き継がれてきたように感じています。

「支援センターNEWS」では、「制度的な情報発信を！」をテーマにしていますが、支援センターの職員として日々感じている事をお伝えしたいという想いからここ数年は自分の意見を交えた内容を発信しています。というのも「支援センターって何をしているのか？」と、とても見えづらいのではないのかなとも感じており、どのような思いや考えで業務に携わっているのか、そういった事をお伝えする事で、身近に感じて頂けるのではないのかなという思いから、このような内容にしています。

求められる事を再考し分かりやすく実践していく事、分かりやすく実践する事で支援センターの理解を進める事ができたらなと思っています。

（中部障害者地域生活支援センター「らくなん」：大塚 秀樹）